

2G01 工程情報の共有と企業間連携

プレゼン：3月10日 B会場 16:30～ 拠点間のサプライチェーン、つながる工場

対象業務の現状と取組み

生産進捗などの工程情報を発注元やサプライヤと共有して工場間見える化を実現

発注元からの委託生産において、計画変更やトラブルなどが生じると納期遅延がしばしば生じていました。それは、生産進捗などの工程情報は、企業間・工場間をまたがる情報共有はなく、見せるべき情報と隠すべき情報が不明瞭で、これによって、計画変更やトラブルに即応することができず納期遅延を招いていました。

この課題を解決するためには、工程情報や生産進捗などの情報を共有するルールと仕組みが必要です。工程間の情報を生産現場の設備や作業工程から自動的に収集する仕組みと、このデータを企業間・工場間で連携する工場間見える化の仕組みを構築する必要があります。本WGでは、MESデータを共有する仕組みをクラウドで構築して、「つながる工場」による効果を実証実験で確認しました。

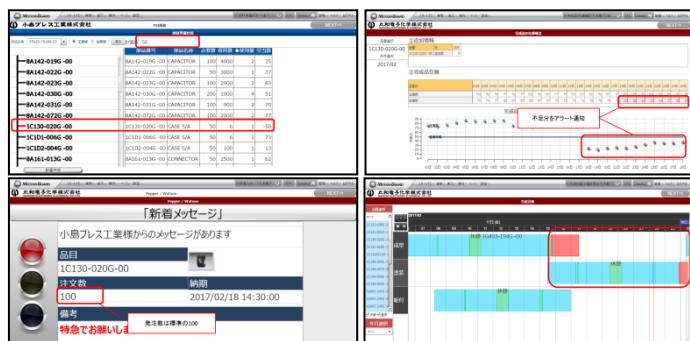


AS-IS
全て人が情報のやり取り、
調査をしている

TO-BE
共有している情報で、
人は判断のみする。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

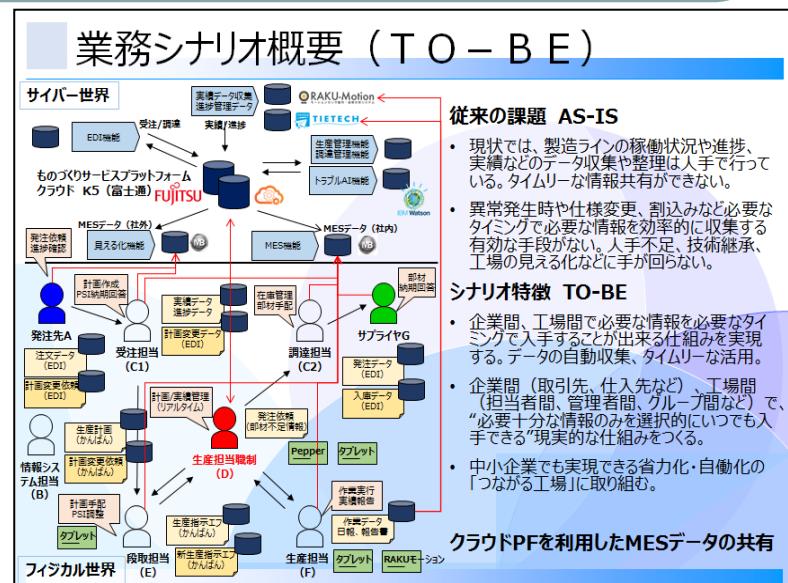
工場間見える化の仕組み構築を行うとともに、生産現場の設備や作業工程から自動的にデータ収集しその情報の可視化に取り組みました。発注元やサプライヤなどに対して、共有すべき生産進捗や在庫、品質などの工程情報をリアルタイムに共有する検討を行いました。MESデータを共有活用して、「つながる工場」実現化に近づきました。



MESデータ共有 & 見える化 (MBC)



日報自動入力



業務シナリオ (TO-BE)

- ファシリテータ：大島啓輔 とPepper&Watson (小島プレス工業)
 エディタ：行司正成 (東洋ビジネスエンジニアリング) 鍋野敬一郎 (フロンティア)
 メンバー：安藤拓也 (丸和電子化学) 白濱純 (ウイングーク1st)
 滝沢伸一 (日立産業制御ソリューションズ) 坪内幸雄 (アビームシステムズ)
 大久保賢二 (ITコーディネータ協会) 中川義之 (ジャパンITソリューションズ)
 浅香忠満 (伊藤忠テクノソリューションズ) 前田智彦 (富士通)

